

土木學會のエキスカージョン

工事視察としては實際今の處日本中を見廻して庄川水力の堰堤工事程適當なものはないと云ふに一決して、新緑の黒部川も視察すべく、遂に申込者は例年の二倍にも達した盛況である。

五月十二日夜上野を發して十五日朝上野に歸る迄の間、會員は唯々夢の如くに盛なりし行程を追想する。

庄川水力のダム工事の總てが大掛りなる最新式設備の完全せるを、混泥土工事の精密なる毎日スランプテストを行ひつゝ、施工する等、尙ほ混泥土施工に對しては日本の現場で成し得る最高の施工と試験方法を執つてをる。全體の工事に對しては主任技師石井頤一郎氏が東奔西走して各工事擔任者と共に最善の努力を拂ひつゝある。

黒部川の發電所は竣工後のものであるが、あの黒部川の狭谷、絶壁、新緑、雪、宇奈月温泉の清冽なる、而して近代的の設備等永久に腦裡を去らないであらう。

井上副會長は常に一行を代表して慇懃にして輕妙なるスピーチを以て答辭をされる、特に富山ホテルに於ける盛大なる歓迎宴に於て白根知事の歓迎辭に對する答辭は滿堂を酔はしめた。

鐵道協會記念祝賀會

五月十九日右樂町の帝國鐵道協會々館に於て舉行された同會創立三十年記念祝賀會及び會館増築落成披露會は狹隘なる新講堂に入り切れざる程の多數會員及び來賓の參會ありて空前の盛會を極めた。

小川鐵相は申すまでもなく、特に内閣改造問題等にて頭を悩ましつゝある田中首相迄列席せられたる事は定に會の光榮と稱すべきであるかも知れない。

當日の參列者全部に對して又最も實用と趣味とを兼ねた冊子が贈呈された、其一は帝國鐵道年鑑であり、第二は

祝賀記念 鐵道畫報

である、鐵道畫報は我が工事畫報社同人が短日月の間に微力の限を盡し、同時に先輩諸氏

の後援を得て、寫眞の蒐集撮影寫眞版の精製編輯印刷等我等の有する經濟限度に於る高級雜誌の精を發揮したものである。

幸にして參列者各位の實質的好評を傳したるは今後の工事畫報社同人の精進に對し一層の激勵である。次に二十日に舉行した

二十五回總會

は例の如く會務の報告、評議員補選、監事選舉等ありて、鐵道省第二改良事務所の中山技師の講演があつた、中山氏は所謂御所トンネル工事に新様式を發揮したるを以て知られたる新進氣鋭の技術者で、當日の講演は歐米各國の高架鐵道に就てを題するものであつた。

同日午後三時から木挽町の歌舞伎座に於て總會出席會員の懇親會を兼ねた觀劇會が催された、市川中車の相國入道清盛や、中村雁次郎の腕屋久兵衛の藝術に我を忘れるもあつた、盛綱首實驗の幕に於てはササガの協會員も涙を誘はれたものが多つた。次に

二十一日の物故會員追悼祭

は今回の行事の一として最も襟を正ふべきものである、多忙なる現代に於ては常に斯る敬虔なる念を忘れ勝ちにされるものであるから、會としては新に進展を圖ると同時に又此種の催も時々あり度いものである。

祭場は狭くはあるが増築館の講堂の壇上に神式を以て壯嚴に設けられた。

第一番のは明治三十二年五月十一日物故したる、川上操六氏である、最近に至つては本年一月十八日物故したる久須美秀三郎氏、本年四月二十二日の大倉喜八郎氏を初め五月十日の樋口達兵衛氏に至る迄合計七百十七名の物故會員に及んだ。

二十三日以後は

各郊外鐵道及び軌道會社の沿線視察、遊覽等に思ひ思ひの趣向を凝した、特に工事畫報社が特輯したる著名工事視察の手引は地方會員諸君の爲めには非常に便利なる手引となつた事は何よりの好都合であつた。